令和４年度千葉県がん対策審議会　子ども・ＡＹＡ世代部会
議事録

１　日時　令和４年２月１日（火）午後６時から７時３０分まで

２　場所　Web 会議（主会場：千葉県本庁舎１階多目的ホール）

３　出席委員
　星岡部会長、井上委員、大橋委員、小川委員、角田委員、川井委員、小出委員、
　髙井委員、中田委員、西牟田委員、野口委員、長谷川委員、日野委員、米本委員

４　議題
（１）第３期千葉県がん対策推進計画の中間評価について
（２）小児がん診療に関する医療機関実態調査について
（３）ちばがんなび（千葉県がん情報）ホームページの改定について

５　報告事項

（１）千葉県小児・ＡＹＡ世代のがん患者等の妊孕性（にんようせい）温存療法研究促進事業について

（２）小児・ＡＹＡ世代がんの講演会について

６　議事内容

議題（１）第３期千葉県がん対策推進計画の中間評価について
　【資料１に基づき説明】

○星岡部会長
　第３期千葉県がん対策推進計画の中間評価についていかがか。

○日野委員
　中間評価では小児がん診療医療機関実態調査を継続するとしているが、関東甲信越地域における小児がん拠点病院・連携病院についての診療施設情報の公表内容を把握した上で、設問を作成しているか。重複している設問がある。

○事務局
　関東甲信越地域小児がん医療提供体制連絡協議会で共有があった現況報告やアンケートの内容か。協議会内では、診療施設ごとの診療体制や現況報告の共有はなかった。本調査は、小児がん診療を行っている県内の医療機関に調査を行い、患者への情報提供を目的として公表するものである。

○日野委員
　小児がん拠点病院・連携病院の診療実績、診療体制、療養環境等の情報は、国立成育医療研究センターのホームページ上に公開されている。今回は県の小児がん診療医療機関実

態調査から診療実績の設問を削除するとのことであるが、重複しているので必要ない。
　他にも重複する設問があるので検討をお願いする。調査票案には、県独自の設問が追加されているので、実施には賛成である。

○事務局
　国立成育医療研究センターのホームページ上に公開されている内容を確認し、検討させていただく。

○日野委員
　小児がん患者の地域医療連携として、予防接種における連携がある。予防接種は実施主体が市町村の事業であり、造血幹細胞移植を受けた患者に対して、予防接種の再接種にかかる費用を助成する事業を実施している市町村がある。
　一方、実施していない市町村もあるため、患者・家族は居住地によっては助成を受けることができず、不利益になることがある。助成制度によって自己負担が１０万円程度少なくなることがあるので、居住地による差をなくすべきであると感じる。県として取り組んでいただきたい。

○事務局
　予防接種の助成については、疾病対策課が担当課となる。県では約３割の市町村が助成を実施していると把握している。本部会の意見を担当課と共有する。

○角田委員
　日野委員の意見に同意する。加えて、患者に「予防接種の助成について調べてみてください」と伝えるだけではなく、医師として市町村の実施状況を把握しておく必要があると感じるため、実施の有無を県で取りまとめて情報公開していただきたい。

○事務局
　千葉県が運営する「千葉県がん情報ちばがんなび」ホームページの小児・ＡＹＡ世代がん情報に、予防接種の助成制度について新たに掲載予定であるが、市町村の実施状況の情報公開については検討課題とする。公開可否や公開するページ等について、担当課である疾病対策課とも協議する。

○日野委員
　教育機関との連携に関しては、小児がんの患者会として井上委員が取り組んでいると把握している。公立の小中学校の教員は多忙であると思うが、インターネットが普及しているので、入院中の患者へのＩＣＴ教育を拡大していただきたい。県として取り組むべきである。

○井上委員
　小児がんの患者会として、県の教育担当課に相談し、千葉市とも連携しているが、進捗していないのが現状である。
　患者や家族から、退院後の復学が不安であると相談を受けることが多いので、診断、治

療開始、入院、全ての期間で通学していた学校の友人や教員との切れ目のない繋がりを保っていくことが必要であると考える。
　復学時の不安としては、治療の影響で容姿が変わった自分を、友人が受け入れてくれるだろうかということが大きい。また、学校側も受け入れようと懸命に取り組むが、不安を感じることもあると把握している。年齢が幼い場合は、治療の影響による脱毛で髪が薄くなった患者が復学した際に、その姿を見た友人が泣き出してしまったという報告もある。
　現在は、タブレットを活用して、ＺＯＯＭなどを用いたオンライン授業を実施ししている学校もあると思うが、患者会で、Ｋｕｂｉ（クビ）というテレプレゼンロボットを持っており、入院中も、通学していた学校と病室を繋げることができる。Ｋｕｂｉ（クビ）の操作はタブレットよりも簡単で、患者の顔が映った画面が、机の上にカメラと一緒に乗るイメージである。患者が病棟から操作できるので、黒板を見せるためにタブレットを黒板の方に教員が向ける必要はない。ぜひ、デモンストレーションをする機会を作っていただきたい。
　昼食を見せ合ったり、授業に参加する等ができれば、双方の繋がりを保つことができる。学校におけるがん教育が始まっているが、こういった取組はがん教育にもなると考える。県や市には、連携した取組を実施していただきたい。

○西牟田委員
　特別支援校が併設している病院に勤務していたことがあるが、以前から主に筋ジストロフィー患者の病棟で、学校と病室をオンラインで繋ぐ環境があった。また、学校以外の社会と病室をオンラインでつなぐ環境整備もあり、才能を持った患者がデザインしたものを商品化するということが行われている。オンラインで病室と学校や社会をつなぐ環境整備は進めていくべきである。
　小児・ＡＹＡ世代がんの罹患状況について質問したい。１４歳以下の罹患数が９６人となっているが、２０１７年に診断をされた患者の数か。

○事務局
　１４歳以下の９６人というのは、全国がん登録で２０１７年１月から１２月までに診断され、届け出があった患者数であり、累積の患者数ではない。

○西牟田委員
　了解した。治療中、経過観察中の患者が申請する小児慢性特定疾病医療費助成制度の悪性新生物の千葉県における受給者数は４００人以上なので、治療中・経過観察中の患者数も資料にすると参考になる。

○星岡部会長
　造血幹細胞移植後の予防接種費用助成、入院中の患者への教育支援についての意見があった。委員の意見を基に、今後の第３期千葉県がん対策推進計画のおける取組を検討していくこととする。

議題（２）小児がん診療に関する医療機関実態調査について
【資料２に基づき説明】

○星岡部会長
　次年度、３年ぶりの調査実施予定である。新たな設問を追加した調査票の案について、意見をお願いしたい。

○日野委員
　本部会の名称は平成３０年に「小児がん対策部会」から「子ども・ＡＹＡ世代部会」に変更している。調査票の内容にＡＹＡ世代のことが含まれているので、調査票の名称を「小児・ＡＹＡ世代がん診療に関する医療機関実態調査」にしてはどうか。
　国立成育医療研究センターのホームページにはブロックごとに小児がん拠点病院、連携病院が一覧になっており、ＰＤＦが公開されている。ＰＤＦで「小児がん診療施設情報公開」と「現況報告」が確認できる。「小児がん診療施設情報公開」では診療実績が過去３年分、入院数、造血幹細胞移植数、療養環境、相談窓口、院内学級の有無、診療機能、専門資格保持者等が掲載されている。
　現況報告については、平成３０年１月～１２月の入院患者数や入院延べ日数等を記載している。
　一部、県の調査と重複している設問がある。同じ設問については、県のホームページから、国立成育医療研究センターのホームページをリンクすることで情報提供は可能なので、検討いただきたい。新たに追加した設問は、県独自の設問なのでよい。

○星岡部会長
　その他、意見や質問はあるか。意見等があれば意見書を事務局に送付していていただきたい。委員の意見を基に検討し、次年度の実施について準備を進めることとする。

議題（３）ちばがんなび（千葉県がん情報）ホームページの改定について
【資料３に基づき説明】

○部会長
　事前に事務局から委員に意見照会し、訂正したものを示している。患者や家族に寄り添う表現、分かりやすい表現を意識して作成する必要があるが、意見や質問はあるか。

○井上委員
　患者・家族には、片仮名言葉が難しい可能性がある。患者会の活動をしているので、長期フォローアップという言葉を理解しているが、保護者からフォローアップとは何か質問されることがある。フォローアップは経過観察とし、ヘルスリテラシーも日本語の訳を１回記載するとよい。

○小川委員
　４ページの「患者さんの兄弟姉妹への支援」２行目の表現について意見がある。「兄弟姉妹へも可能な範囲で対話すること」となっているが、対話はお互いが実施するものなので、「兄弟姉妹と可能な範囲で対話すること」の方が、違和感のない表現である。

○小出委員
　６ページのイラストにおける晩期合併症に関連する代表的な症状について。記載が「内

分泌機」となっているが、「内分泌機能」なので訂正が必要である。
　また、症状に「成長ホルモン分泌障害・甲状腺機能障害など」と記載してある。生殖機能や呼吸機能は分かりやすいが、内分泌機能というのは分かりづらい可能性が高い。症状を記載する方がよい。

○西牟田委員
　呼吸機能の症状で、「閉塞性気管支炎」となっているが、「閉塞性細気管支炎」に訂正が必要。また、８ページの「子供向けの制度」について、小児慢性特定疾患治療研究事業とあるが、制度名が小児慢性特定疾病医療費助成制度に変更になっているので、訂正が必要。

○川井委員
　７ページの妊孕性の温存について、「妊孕性」の「孕」というのは、日常で使用されることが少ない言葉なので、ひらがな表記にするか、ふりがなを振った方がよい。

○事務局
　了解した。意見を基に訂正する。

○星岡部会長
　委員の意見を基に訂正し、情報公開を進めることとする。

報告事項（１）千葉県小児・ＡＹＡ世代のがん患者等の妊孕性（にんようせい）温存療法研究促進事業について

【資料４に基づき説明】

○米本委員
　千葉県がん・生殖医療相談支援センターについて質問したい。妊孕性温存療法を実施する場合に紹介先や紹介方法が具体的に分からない場合は、千葉県がん・生殖医療相談支援センターに連絡すれば、紹介を受けることができるか。
　１２月に開設したとのことであるが、どのような活動状況か。

○事務局
　現時点では、千葉大学医学部附属病院内の千葉県がん・生殖医療相談支援センターのホームページを見た患者からの相談を受けていると把握している。
　今後は、県のホームページから、千葉県がん・生殖医療相談支援センターの URL をリンクして広く周知する予定。
　医療機関からの相談に応じる役割も担う予定で、現在、直通の電話番号を作る等の準備を進めている段階ではあるが、医療機関からの相談に応じる体制を作っている。

○星岡部会長
　１１月８日から助成申請を受け付けているとのことだが、申請状況はどうか。

○事務局
　現在までに、１３件の申請を受けている。

報告事項（２）小児・ＡＹＡ世代がんの講演会について
【資料５に基づき説明】

○星岡部会長
日野委員と井上委員が講師で、オンライン講演会を実施するとのことであるが、いかがか。

○日野委員
分かりやすい講演を実施したいと考えている。

○井上委員
患者会として２５年以上活動する中で受けた相談や、患者・家族がどのように対処をしていたかを伝える予定。患者会は専門家ではないので、傾聴の姿勢が大切で、対処のためにはどの機関につながればよいのか助言することが大切だと思っている。患者会の活動に参加したいと考える方にも、傾聴の姿勢や取組について理解していただき、関心を持っていただけるとよい。

○小川委員
質問がある。ＺＯＯＭ講演会はウェビナー機能を使用しての実施か。

○事務局
ウェビナー機能を使用しての実施である。

５　その他
○星岡部会長
千葉県がん対策審議会緩和ケア部会の藤田委員から「【要望】小児・若年世代への在宅療養支援助成について」が提出されており、子ども・ＡＹＡ世代への支援制度設立に対する要望なので、本部会でも情報共有のために事務局から説明してもらう。

【参考資料４に基づき説明】

○星岡部会長
意見・質問はあるか。

○日野委員
小児科医なので、介護保険を利用できない４０歳未満への在宅療養支援助成のニーズを把握する機会は少なかったが、非常に重要なことなので、本部会も協力していく必要があると考える。

○星岡部会長
事務局には、第３期千葉県がん対策推進計画にある患者支援事業推進の一環として、引き続きニーズの把握や情報収集に努めていただきたい。

○事務局

事務局から２点、情報共有する。

１点目は、国に対する県の要望について。小児・若年世代への在宅療養支援については、全国的な課題となっている。全国の都道府県のうち、１部の自治体が助成制度を実施している現状であるが、居住する都道府県によって助成を受けられるか否か決まるのは不公平であるため、全国の都道府県から国に対して、制度の創設を要望する動きがある。

２点目は、県の取組について。国の制度創設を待つだけでなく、県の事業として実施したいと取り組んでいる。県内では千葉市、浦安市は独自に助成事業を実施していることを把握している。国の制度創設前に事業化する予算要求を出しているが、今年度は実現に至らなかった。

第３期千葉県がん対策推進計画にある患者支援事業の推進としても、助成事業が必要であると考えているため、引き続き取り組んでいく予定である。

○星岡部会長

その他、意見はあるか。特に意見がなければ、これで終了とする。

【議事終了】